

雑記：姉の家

用途 住宅

施主 姉家族

敷地 静岡県富士市

構造 木造在来工法

階数 地上2階

敷地面積 143.9m²

建築面積 86.5m²

建蔽率 60% / 60%

延床面積 119.4m²

容積率 83% / 200%

地域 第一種住居地域

地区 第22条指定区域

人類は記録媒体の発達により記憶 [メモリー] のようなローデータまで記録 [レコード] 可能となつた。ヒトの記憶には矛盾や複雑さといった魅力がある。だがそれは記録的 [明瞭な主題を求める] 設計手法では削ぎ落とされてしまう。本設計は記憶的 [複雑で多主題を統合する] 設計手法により膨大なローデータを建築の主要なエレメントとして扱う。故に自身や他者のメモリーが顕著に現れ、かつレコード可能な姉の家を舞台とした。しかし、人間の記憶というのは瞬間に消え去ってしまうため記録が不可欠となる。その記録媒体が雑記 [画像、対話、引用物等の可能な限りの設計プロセスを設計と並走して記述し製本したもの] である。出来事を「言葉に向き合うか」との思考に非常な価値があるように思えた。よってそのまま雑記として痕跡が残される。特に臨場感を伝達する書物はその力が大きい。当事者の心の揺れ動きといったメモリーまで記録するにはそうした伝達力が必要となる。設計と並走して記述、製本される雑記はライブ感が必然的に記録され続ける。また雑記された途端に設計過程はエレメントとなり、自己参照可能となれる。曖昧で恣意的とされやすいメモリーを設計要素として扱い、それらの断片が複雑で何とも言い難いカタチに統合された建築は人間生活と呼吸するはずだ。そうした建築はスケール関係なしに世界に影響を与えたと信じている。これはその宣言であり、記憶である。



Table with columns: 頁 (Page), 日 (Date), 題 (Title). It lists various design and research notes, including references to other architects and projects.

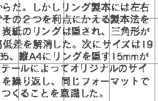
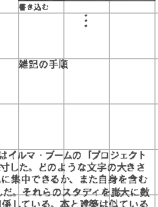
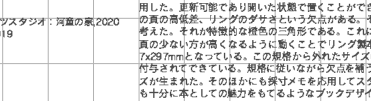
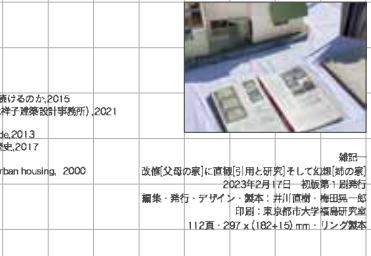
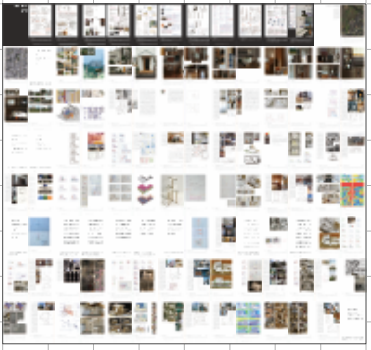
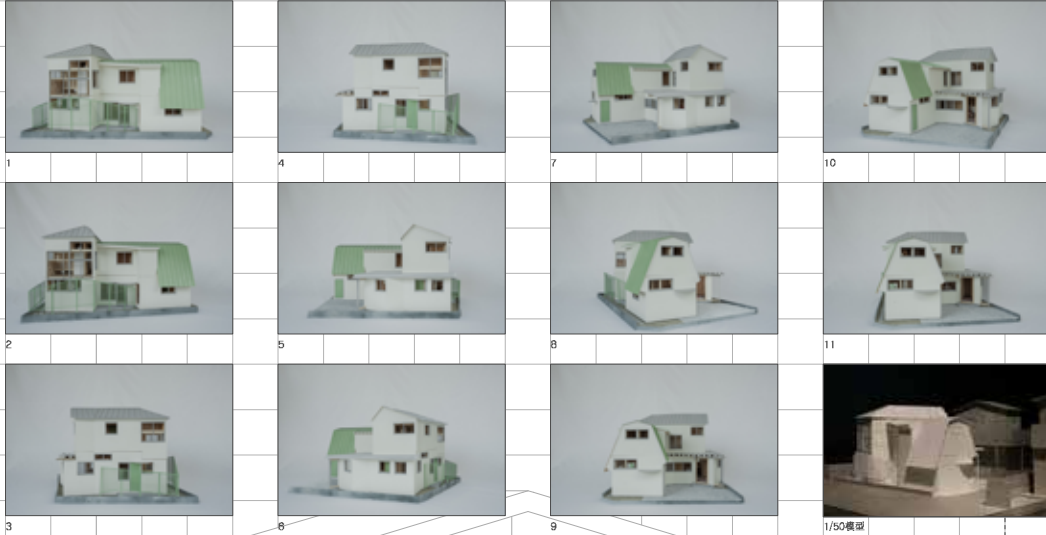


Table with columns: 頁 (Page), 文種 (Type). It lists various references and sources used in the design process.

軸を示す11の立面

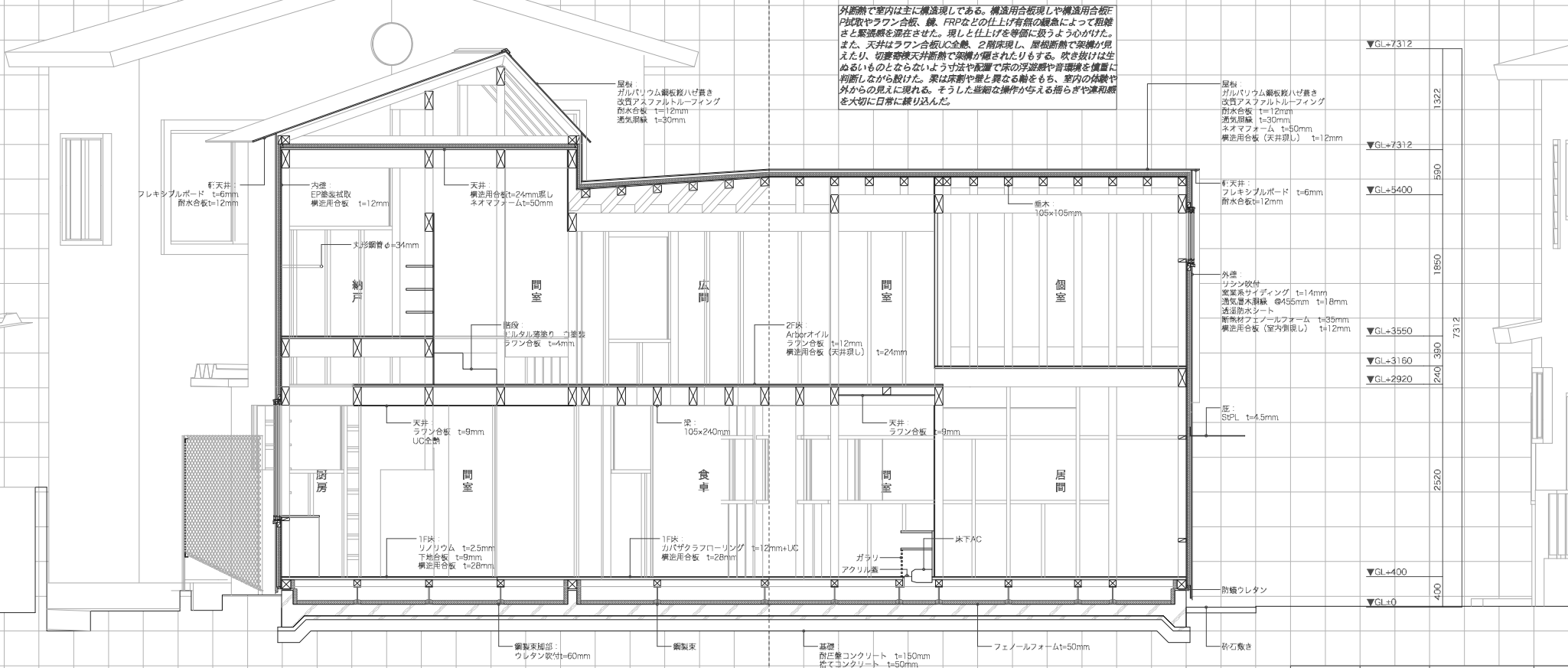


屋根伏見留図



敷地は静岡県富士市にある突如の前の緑地予定地。前面道路の交通量は多く歩道は狭い。普遍的な住宅地に位置する。だが敷地は「角度と境界」により街区内部でも取りづらくことが判明した。敷地周囲は前面道路・袋小路・隣地・用水路と4面で異なる。またそれぞれ微妙な角度をもつ。敷地を防げた際、その角度によって周辺環境との距離感が絶えず変化し、近く感じる時があった。また周辺建物は後退している。がしかし、180mの街区としてみると道路に迫るように建つ家も多くみられる。これは敷地の奥行による前庭の有無が原因していることが分かった。本設計の敷地は周辺と比較すると奥行が浅い。しかし隣り合う家は後退している。つまり敷地目一杯に建てながら、周辺環境を圧迫しないような立ち方を考えると何とも面白い敷地である。

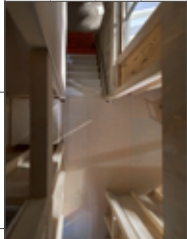
外断熱で室内は主に構造現しである。構造用合板現しや構造用合板P板取やラワン合板、FRPなどの仕上げ有無の観念によって粗雑さと繁雑感を滞在させた。現しと仕上げを等価に扱うよう心がけた。また、天井はラワン合板UC全断、2階床現し、屋根断熱で梁構が見えたり、切妻寄棟天井断熱で梁構が隠されたりもする。吹き抜けは生ぬるいものとならないよう寸法や配置で床の浮遊感や音環境を慎重に判断しながら扱った。梁は床前や壁と異なる軸をもち、壁内の傾斜や外からの見えに現れる。そうした繊細な操作が与える揺らぎや違和感を大切に日常に織り込んだ。



▽GL=7312	1322
▽GL=7312	580
▽GL=5400	1850
▽GL=3550	7312
▽GL=3160	380
▽GL=2920	240
▽GL=400	2920
▽GL=0	400



気流を上からみる。床と階段の隙が、そこに飛び込む光の軌跡は動的になる。そこにまたなる動きをフリスコで表現した。ここでの階差は、ラッシュの奥へのオーバーラップによって連続的な空間が作り出される。



気流を上からみる。階段を上る途中には大きな開口があり、上層の手には主寝室の設計が広がる。奥の部屋は、左右には同じように設計されている。2階の中心となるような空間である。



主寝室を上からみる。100坪の柱が伸びている。その間を走るようにベッドが配置されている。ベッドの設計は、奥の部屋に合わせた。柱とベッドの間に、ラッシュの奥へのオーバーラップを繰り返すように設計されている。そのように設計されている。



気流から斜方向に見ると、気流は主寝室を貫いた天板を穿ち、二重床によって光の中心は入りやすくなる。また、奥の部屋から階段はラッシュの隙によって視線を通す。奥の部屋は、メンタンの奥にも通る。ラッシュは斜方向に、主寝室へと通るようになる。



気流から階段を上ると、階段は奥の部屋を貫いた天板を穿ち、二重床によって光の中心は入りやすくなる。また、奥の部屋から階段はラッシュの隙によって視線を通す。奥の部屋は、メンタンの奥にも通る。ラッシュは斜方向に、主寝室へと通るようになる。



気流から階段を上ると、階段は奥の部屋を貫いた天板を穿ち、二重床によって光の中心は入りやすくなる。また、奥の部屋から階段はラッシュの隙によって視線を通す。奥の部屋は、メンタンの奥にも通る。ラッシュは斜方向に、主寝室へと通るようになる。

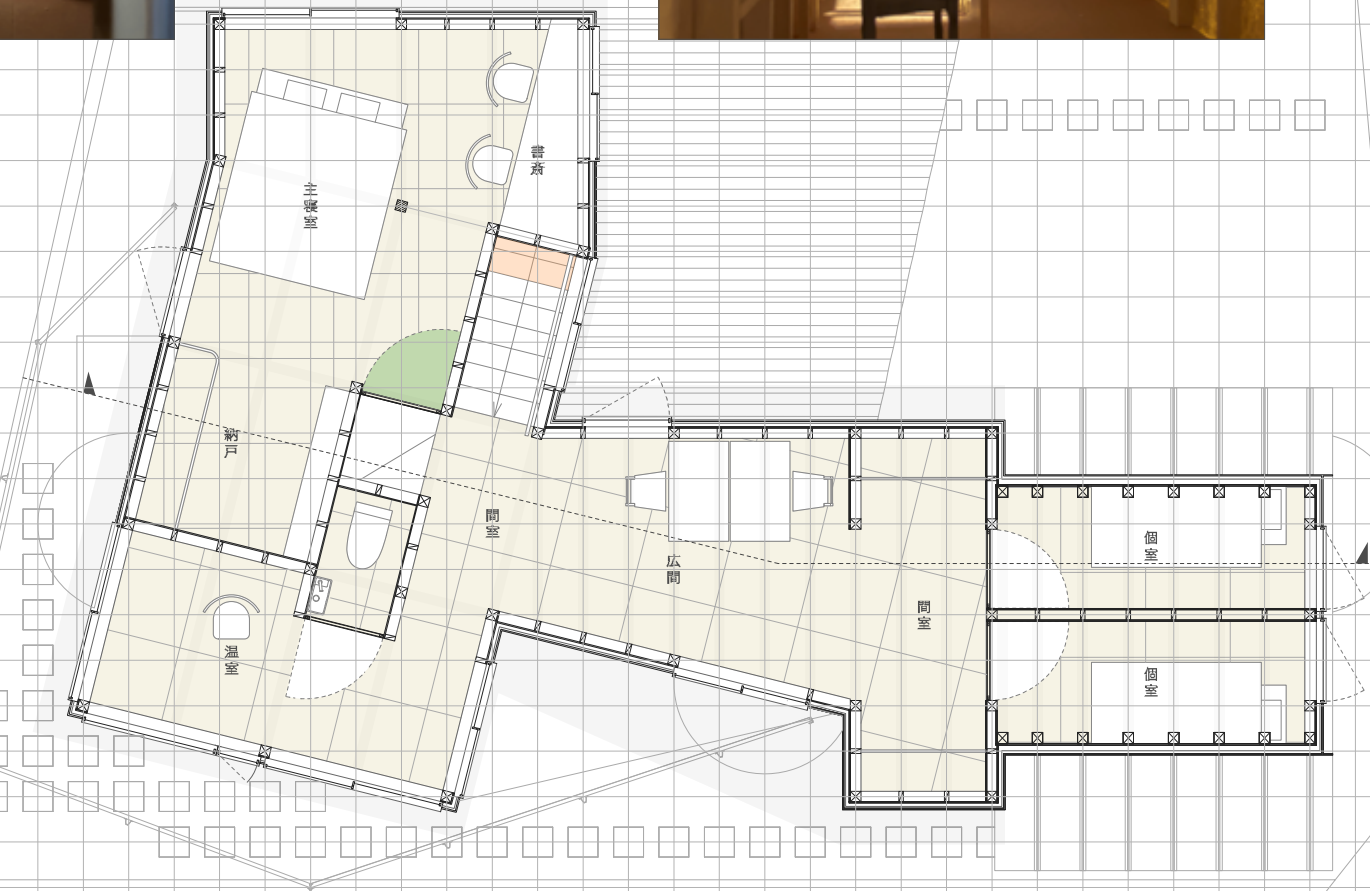


気流から階段を上ると、階段は奥の部屋を貫いた天板を穿ち、二重床によって光の中心は入りやすくなる。また、奥の部屋から階段はラッシュの隙によって視線を通す。奥の部屋は、メンタンの奥にも通る。ラッシュは斜方向に、主寝室へと通るようになる。



気流から階段を上ると、階段は奥の部屋を貫いた天板を穿ち、二重床によって光の中心は入りやすくなる。また、奥の部屋から階段はラッシュの隙によって視線を通す。奥の部屋は、メンタンの奥にも通る。ラッシュは斜方向に、主寝室へと通るようになる。

2階、共用部と側室部で3つの異なる床レベルをもつ。その床はそれぞれ850角のラワン合板であり、3つのレベルでそれぞれ異なる床の動きをもつ。その床は階段と一体化して設計されている。活潑な床ではズレを大きく、個室や寝室ではそのズレを少なくする。奥にオーバーラップする大きな連続したラッシュをもつ個室は、内部外部ともに通風をもたせ、通風の圧迫感を経験する。その個室に呼応するように、フェンスが高さをもつ。寝床は子供と両親を可能な限り離れた。また、奥の開口を絞って開口が小さくなるように設計した。浴室、個室、広間、個室、個室の配置とし、個室を小さくすることで子供のための空間を確保した。収納は戸を閉じて、折折と内装によって確保した。大きなラッシュと個室は、ラッシュの隙によって通風を確保する。また、折折、床、ヴォリュームのズレなどによって独立しつつも連続するような体験となる。それを引き起こす必要のない。周辺環境に対して有効にはたらく。その両者のバランスを慎重に見極めて設計している。



気流を上からみる。階段を上ると、階段は奥の部屋を貫いた天板を穿ち、二重床によって光の中心は入りやすくなる。また、奥の部屋から階段はラッシュの隙によって視線を通す。奥の部屋は、メンタンの奥にも通る。ラッシュは斜方向に、主寝室へと通るようになる。



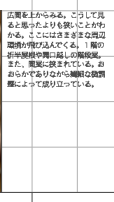
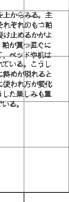
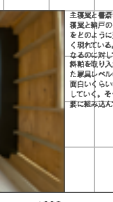
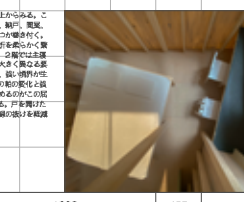
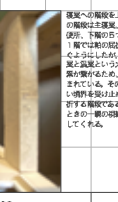
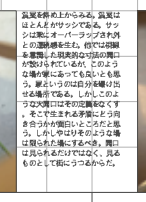
気流を上からみる。階段を上ると、階段は奥の部屋を貫いた天板を穿ち、二重床によって光の中心は入りやすくなる。また、奥の部屋から階段はラッシュの隙によって視線を通す。奥の部屋は、メンタンの奥にも通る。ラッシュは斜方向に、主寝室へと通るようになる。



気流を上からみる。階段を上ると、階段は奥の部屋を貫いた天板を穿ち、二重床によって光の中心は入りやすくなる。また、奥の部屋から階段はラッシュの隙によって視線を通す。奥の部屋は、メンタンの奥にも通る。ラッシュは斜方向に、主寝室へと通るようになる。



気流を上からみる。階段を上ると、階段は奥の部屋を貫いた天板を穿ち、二重床によって光の中心は入りやすくなる。また、奥の部屋から階段はラッシュの隙によって視線を通す。奥の部屋は、メンタンの奥にも通る。ラッシュは斜方向に、主寝室へと通るようになる。





食卓から見た風景。階段の天井は黒く明ねる。食卓の天井は白く照明の天井は白く天井の天井によって相対して黒く見えてくる。



階段から見た風景。階段には白く天井は黒く見えてくる。階段の天井は黒く明ねる。階段の天井は黒く明ねる。階段の天井は黒く明ねる。階段の天井は黒く明ねる。



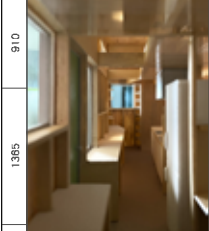
厨房から見た風景。キッチンには黒く明ねる。キッチンには黒く明ねる。キッチンには黒く明ねる。キッチンには黒く明ねる。



リビングから見た風景。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。



寝室から見た風景。寝室には黒く明ねる。寝室には黒く明ねる。寝室には黒く明ねる。寝室には黒く明ねる。

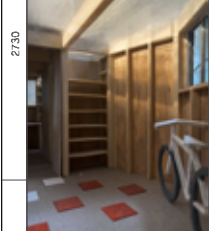


食卓から見た風景。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。

1階、床はフローリングとリノリウムの2つがある。玄関と室内に高低差はない。そこにはテラコッタと白タイルがある。白タイルあたりで靴を履く、タイルとフローリングの境界線が外の配導として用いる。玄関から道路、勝手口から家を囲うように配置される。階段もタイルと似た色で塗り分けられる。リノリウムは水増部分に用いられる。フローリングは電線と配管を隠す。食卓は朝日が差し込む東を向く。フェンスの色で勝手口2つとトイレの扉が塗られる。外との心理的距離を考慮して動線が連続的になるように玄関や壁を配管。全てが見えてくるように動線は屈折や壁によって隠される。扉や壁など機能として記号を帯びやすいものは壁が曖昧になるように距離感から少し込み出すように記号を塗る。扉や壁など機能として記号を帯びやすいものは壁が曖昧になるように距離感から少し込み出すように記号を塗る。

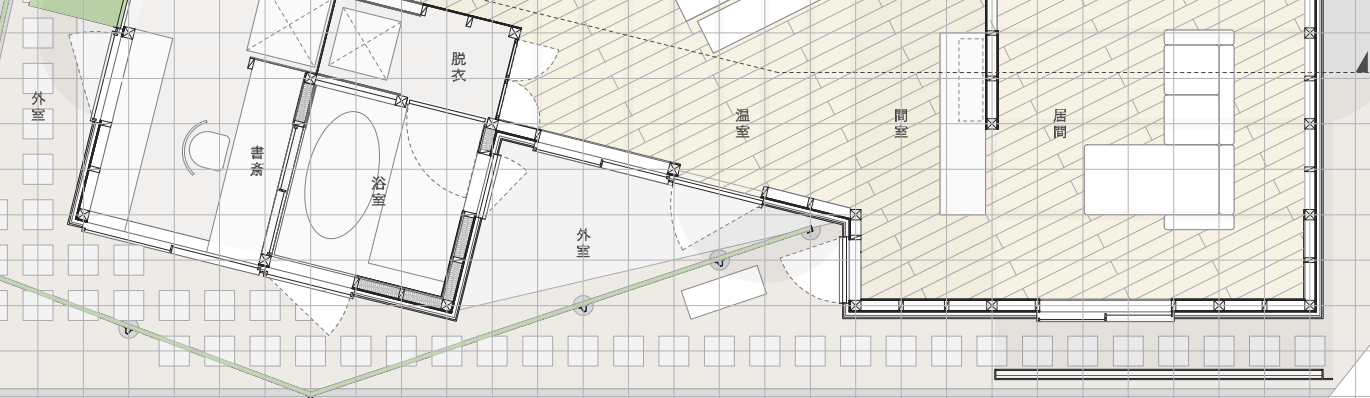


リビングから見た風景。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。

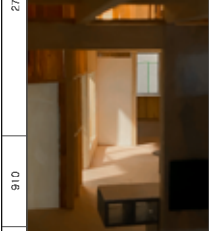


食卓から見た風景。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。

食卓から見た風景。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。

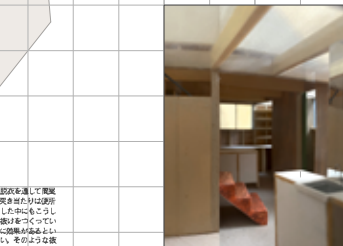
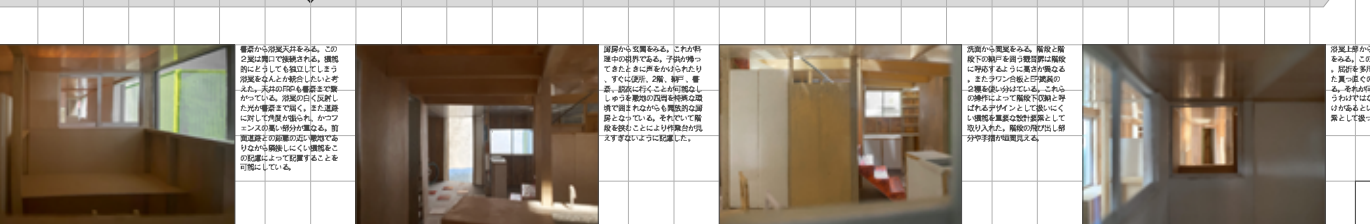


リビングから見た風景。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。



食卓から見た風景。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。

食卓から見た風景。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。



リビングから見た風景。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。リビングには黒く明ねる。



食卓から見た風景。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。

食卓から見た風景。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。食卓の天井は黒く明ねる。

